

# 「彼だけではない」

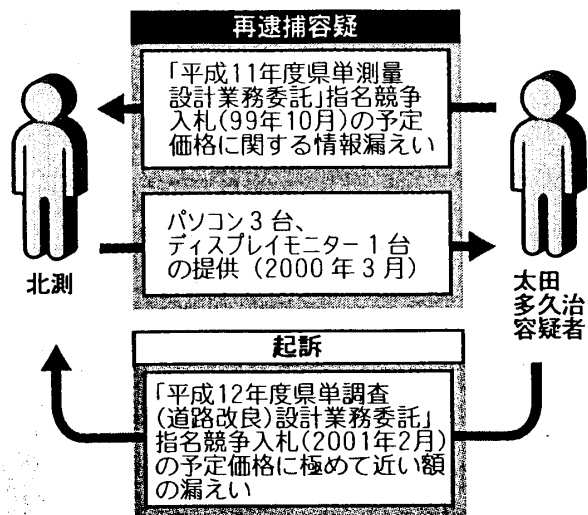
## 県職員パソコン問題 贈収賄事件に

「たかっていたのは彼だけではない」。県土木部の出先機関職員による一連のパソコン問題は九日、入札予定価格情報の漏えいを見返りにした贈収賄容疑事件に発展した。県発注事業

# 業者「絶対逆らえない」

# たかり携帯やビデオも

「パソコン提供は今にする。以前は携帯電話、始まったことではない」その前はビデオやカメラと北信地方の業者は断言など、その時々によって



要求される物品があった。その都度、手を変え品を変え、同じように業者にたかっていた。県職員にパソコンを提供した別の業者は「うちの仕事は県と国の仕事で100%。絶対に担当職員には逆らえない。指名外しを半年もくれば会社は干上がる」と、県職員への「服従」の姿勢を打ち明ける。

中信地方の建設業者は、南信地方の県関連工事を受け負った三年前、検査時に設計コンサル業者から、検査員の県職員に興味や好みのカラオケ

の曲、食べ物、土産品に最適な物などを記した資料を事前に手渡された。検査員は二十代後半。南信地方のある市で一番高級なクラブに連れて行き、職員に注文を聞く。ボトル一本で十八万円もする酒を注文された。小僧が、と思ったが、工事のやり直しよりはいい」とこらえたという。

「突然、夜に建設事務所幹部に電話され、店名を告げられて呼び出され、支払いを回された」。建設事務所職員から異動前に、鹿肉が好物なんだ、とねだられた。業者が「告発」する県職員

で明らかになった他のパソコン二台やディスプレイモニターの提供、情報漏えいについては把握していなかった。調査を担当した人事課の和田恭良課長は「本人の申告を信じるしかなかった」と調査の限界を認めた。